



私が見た 図書館

英米語学科 4年次生
澤 佳余

これまでにおける私の図書館の利用方法は、授業の空き時間に自習をしたり、試験前に閲覧室で、少し調べものをする程度でしかありませんでした。実を言えば、図書館でアルバイトをするまでは、どれだけの本が所蔵されており、それらの大半が書庫にあることさえ知りませんでした。その理由は簡単です。図書館について無知だったからです。

中に入ってみるとまず、本の種類がバラエティーに富んでいることがわかりました。さらに図書館には、今現在世界で問題、あるいは話題になっていることなどについてのタイムリーな本がたくさん置かれていることに気づき、広範囲に渡る分野を網羅していると思いました。語学を学ぶ私たち学生は、世界での出来事や時代の流れに敏感でなくてはなりません。それをキャッチするためにもさまざまな情報を提供してくれる図書館または図書館のホームページ（蔵書検索などもできますからたいへん便利）を利用しない手はないと思います。私はなぜ今まで利用しなかったのだろうかと真に後悔しています。

皆さんも一度図書館をじっくり探索してみてください。きっと必要な情報が入手できると思います。



PAX
MUN
PER
LING

ご存じですか？

「京都から世界へ」
～本学図書館の蔵書から
京都の魅力を～



皆さんもご承知のとおり、本学のある京都という地は長きにわたり日本の政治・文化の中心でありました。そして現在も日本の文化・伝統を世界に伝える国際都市としての役割を担っています。そのような事から多くの外国人の方が訪れ、また他の都道府県の方も日本の伝統に触れるために、たくさんの方々京都を訪れています。

皆さんが他の国の言語や文化を学ぶ中で、自分の国の文化を学ぶ、理解するということが大変重要なものとなります。その点から見てもこの京都の地で学ぶということは皆さんの他言語習得にとって大変プラスになるものです。

本学図書館ではそういった観点から京都関係の図書を数多く収集し、「京都から世界へ～本学図

書館の蔵書から京都の魅力を～」という複合データベースを公開しています。京都関係の日本語図書が項目ごとに検索できる「所蔵データベース 京都」、京都について外国で出版された図書を検索できるデータベース「Kyoto in the world」を中心に京都を舞台にした文学を紹介した「古都の雅を求めて」、京都関係のデジタル稀観書展示会「古都の心にふれた西欧の人たち」、京都関係のサイトを集めたリンク集と色々な角度から京都について学んでいただける構成となっています。

貴重な学生生活の時間の中で、是非皆さんが生活している京都という地について本を読んだり、数多くある文化財を訪れてみてください。皆さんの学習に必ずプラスになる何かを感じていただけたらと思います。そして今回紹介したデータベース「京都から世界へ」が皆さんの国際的感覚のスキルアップに大いに役立つことができれば幸いです。

(機械化推進委員会委員長 宮杉 浩)